

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

令和元年度 兵庫県農業気象技術情報第5号（9月情報）について（送付）

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲	全 県 共 通	<p>1 生育 県北部の極早生品種「コシヒカリ」の出穂期は平年より1日早く、草丈はやや短く、茎数は少ない。成熟期は平年並と考えられる。 県南部の出穂期は極早生品種の「キヌヒカリ」は平年より1日早く、中生品種の「ヒノヒカリ」、晩生品種の「山田錦」は平年よりやや早くなる見込み。草丈は「キヌヒカリ」、「ヒノヒカリ」、「山田錦」でやや短い。茎数は「キヌヒカリ」、「山田錦」で平年より少なく、「ヒノヒカリ」は多い。成熟期はやや早まると考えられる。</p> <p>2 病害虫 (1) 穂いもちはやや少ないと予想される。今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多いと予想されており、本病の発生を助長する要因は少ない。穂いもちの発生量がやや少ないことから、穂いもちへの移行は少ないと考えられ、今後もやや少ない発生で推移すると予想される。 (2) 紋枯病はやや多い発生と予想される。気象条件により、急激に病勢進展する可能性があり、普通期においては注意が必要である。向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、ほ場によっては多発する場合もあると思われる。</p>	<p>1 生育 落水まではできるだけ飽水管理に努める。水が少ない場合は走り水でも良い。ほ場の乾燥状況に注意して、収穫作業に支障のない限り、落水時期は刈取7日前を目安とする。 適期収穫を行う。刈取時期の目安は、稔実もみの85%（山田錦は90%）が黄化したときである。特に極早生品種は胴割れ防止のため、玄米水分の低下に留意し、刈り遅れに注意する。黄化もみ率は正常穂で判定すること。 乾燥作業前は必ず水分チェックを行い、急激な乾燥は避ける。外気温が高いときに乾燥設定温度が低いと、乾燥時間が長引いて、品質が低下することがあるので注意する。</p> <p>2 病害虫 (1) ほ場及び周辺ほ場をよく見回り、発生状況を確認する。すでに葉いもち病斑がある場合は、箱施用剤の効果は切れているので、穂へ感染する可能性があり、注意が必要である。防除は、薬剤の種類と散布時期に注意する。 (2) ほ場をよく見回り、適宜農薬散布を行う。また、多発ほ場では早めに秋すきを行い、越冬菌核の減少を図る。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全県共通	<p>(3) トビイロウンカは、8月上旬の現地調査では一部ほ場で発生を認めており（現地発生ほ場率3.8%）、発生は平年並になると予想される。本種は夏季に発生が少ない場合であっても秋季に急激に増える場合があり、既に発生が確認されているほ場においては、坪枯れなどの被害につながる可能性が高いので注意する。</p> <p>(4) 斑点米カメムシ類は、予察灯およびフェロモントラップへの誘殺も増加が見られ始めている。本田では例年よりやや早い時期から発生が確認されており、今後の1か月予報で、気温は高いと予想されていることから、発生はやや多いと予想される。</p>	<p>(3) 収穫期が10月以降になる作型（ヒノヒカリ・山田錦等）や無防除ほ場においては、坪枯れが生じる可能性がある。8月下旬～9月上旬における本虫の密度が要防除水準（成・幼虫5頭/株）を超える場合は速やかに防除を実施する。</p> <p>(4) 斑点米カメムシ類は、穂揃期に防除を徹底して行う。ヒエの穂やホタルイの小穂が発生源となるので、特にヒエやホタルイの発生ほ場は防除を行う。</p>
大豆	全県共通	<p>1 生育 降雨が少ないため、開花期は平年よりやや遅れている。生育は土壤水分が不足気味のほ場ではやや遅れているが、土壤水分が適切なほ場では順調である。</p> <p>2 病害虫 (1) 立枯性病害の発生は、現地調査では発生ほ場率6.8%（前年値7.5%）とやや少ない発生が確認された。今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多いと予想されており、平年並の発生が予想される。</p> <p>(2) 吸実性カメムシ類は、現地調査では発生ほ場率が9.1%（前年値5.0%）であり、密度は0.3頭/10株とやや少なかった。今後の1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想される。</p>	<p>1 生育 降雨による滞水がないように、ほ場の排水を良くする。一方、土壤が乾燥する場合は、走り水等により土壤水分を一定に保ち、莢伸長や子実肥大が順調に進むよう努める。</p> <p>2 病害虫 (1) ほ場の排水対策を行い、発病しにくい環境を作る。畝間かん水を行う場合は、停滞水とならないように排水対策等のほ場管理に努める。</p> <p>(2) カメムシ類の防除は着莢初期～子実肥大期である。</p>
キャベツ	全県共通	<p>1 栽培管理 (1) 近年、ゲリラ豪雨や台風の発生が多く、降雨に伴う作業の遅れや畝立て時の碎土不良が懸念される。</p> <p>(2) 定植後に降雨がない場合は、苗の活着不良が懸念される。</p>	<p>1 栽培管理 (1) ほ場内外の排水性を良好に保ち、特に大雨が予想される場合には排水溝をさらえておく。また降雨による畝の崩れや落水口への連結不良に注意し、冠水時には早期の排水に努める。</p> <p>(2) 定植後は、かん水チューブ等で十分かん水し、苗の活着と初期生育を促す。土壤が乾燥している時の中耕は浅めに行う。</p>

作物 地域	栽培上の留意点	対 応 策										
キャベツ 全 県 共 通 続 き	<p>2 病害虫</p> <p>(1) ハイマダラノメイガは、加西市におけるクレオメ(誘致植物)の調査では、8月第2週の幼虫寄生シュート(花枝)率が8%と平年より密度増加時期がやや遅いものの、現在は増加傾向がみられている。今後の気象は高温が予想され、増殖には好適であるため、今後栽培される野菜類(アブラナ科)では、やや多い発生状況で推移すると考えられる。</p> <p>(2) ハスモンヨトウの発生はフェロモントラップでの誘殺数は、加西市では7月6半旬に56頭(平年値76頭)、南あわじ市では6.4頭(平年値4.8頭)と平年並であった。今後の気象条件は高温が予想され、増殖には好適であるため、今後、栽培される野菜類では、やや多い発生状況で推移すると考えられる。</p> <p>(3) シロイチモジヨトウは、淡路地域において、実施しているフェロモントラップ調査では、7月6半旬に平均誘殺数90.4頭、前年値95.9頭と多発した前年並の誘殺がみられている。今後の1か月予報によると気温は高く予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。生態的には今後密度増加期を迎えることから、やや多い発生が予想される。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>(1) キャベツなどアブラナ科野菜の育苗期および定植直後の加害は被害が大きいので、不織布や寒冷紗などによりハイマダラノメイガの飛来を避けるとともに、定植前の予防的防除を行う。</p> <p>(2) ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。薬剤は病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)を参考に、適切に散布する。</p> <p>(3) ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、生育初期の被害には特に注意する。薬剤は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)を参考に、適切に散布する。</p>										
果樹 全 県 共 通	<p>1 生育</p> <p>(1) 各果樹の生育ステージに適した土壌水分を維持する。</p> <p>(2) 果実の成熟は、樹種や品種、園地等によってバラツキがあるので、適期収穫に努める。</p> <p>樹種別の生育状況(8月下旬時点)</p> <table border="1" data-bbox="296 1756 1420 2101"> <tbody> <tr> <td data-bbox="296 1756 523 1832">クリ</td> <td data-bbox="523 1756 1420 1832">生育はほぼ平年並で、早生の成熟も平年並。着量量は「丹沢」が多く、「銀寄」が少なく、「筑波」が平年並。果実肥大はやや劣る。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="296 1832 523 1908">ブドウ</td> <td data-bbox="523 1832 1420 1908">成熟期はほぼ平年並で、果粒の肥大は平年並で着色は比較的良いが、一部裂果がみられる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="296 1908 523 1984">ナシ(青ナシ)</td> <td data-bbox="523 1908 1420 1984">成熟期は平年に比べ1~2日遅く、前年に比べ4~5日遅い。果実肥大はやや劣る。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="296 1984 523 2060">イチジク</td> <td data-bbox="523 1984 1420 2060">果実の収穫開始は平年に比べ3日遅い。収穫期に入り降雨があり、果実は大玉傾向であるが、着色はやや悪い。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="296 2060 523 2101">温州ミカン</td> <td data-bbox="523 2060 1420 2101">裏年傾向で着果の少ない園が見られるなど、園地間にバラツキがある。</td> </tr> </tbody> </table>	クリ	生育はほぼ平年並で、早生の成熟も平年並。着量量は「丹沢」が多く、「銀寄」が少なく、「筑波」が平年並。果実肥大はやや劣る。	ブドウ	成熟期はほぼ平年並で、果粒の肥大は平年並で着色は比較的良いが、一部裂果がみられる。	ナシ(青ナシ)	成熟期は平年に比べ1~2日遅く、前年に比べ4~5日遅い。果実肥大はやや劣る。	イチジク	果実の収穫開始は平年に比べ3日遅い。収穫期に入り降雨があり、果実は大玉傾向であるが、着色はやや悪い。	温州ミカン	裏年傾向で着果の少ない園が見られるなど、園地間にバラツキがある。	<p>1 生育</p> <p>(1) 高温、乾燥が続く場合はかん水、敷きわらなど乾燥防止対策を行う。</p> <p>(2) 食味およびカラーチャートや糖度計等を活用し、果皮色、糖度、酸含量、果実の硬さ等から収穫適期を判断する。</p>
クリ	生育はほぼ平年並で、早生の成熟も平年並。着量量は「丹沢」が多く、「銀寄」が少なく、「筑波」が平年並。果実肥大はやや劣る。											
ブドウ	成熟期はほぼ平年並で、果粒の肥大は平年並で着色は比較的良いが、一部裂果がみられる。											
ナシ(青ナシ)	成熟期は平年に比べ1~2日遅く、前年に比べ4~5日遅い。果実肥大はやや劣る。											
イチジク	果実の収穫開始は平年に比べ3日遅い。収穫期に入り降雨があり、果実は大玉傾向であるが、着色はやや悪い。											
温州ミカン	裏年傾向で着果の少ない園が見られるなど、園地間にバラツキがある。											

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
果樹 樹 続 き	全 県 共 通	<p>2 台風対策 台風の接近に対する備えを行う。</p> <p>3 病害虫 (1) 今後の降雨により、イチジクの腐敗果、疫病等病害の発生が懸念される。</p> <p>(2) 果樹カメムシ類はやや多いと予想される。</p>	<p>2 台風対策 枝折れ防止のため、枝の結束や支柱を強化する。防風ネットの補強に努め、葉ずれ等による傷果の発生を減らす。 収穫可能な果実はできる限り収穫しておく（農薬使用基準に留意）。 雨水が速やかに園外に流れるよう、排水溝、排水口の点検をする。</p> <p>3 病害虫 (1) 病害の発生に注意し、適切な防除に努める。イチジクは腐敗果を早めに処分し、病菌を媒介するショウジョウバエ類の発生を防ぐ。前年の秋以降病害が多発した園では、果実や葉の観察を行い、必要に応じて臨機防除を行う。</p> <p>(2) 発生動向に注意し、適切な防除に努める。病害虫発生予察防除情報第3号を参照のこと。 (<a href="http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/31boujyo3.pdf">http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/31boujyo3.pdf</a>)</p>

◎水稲・大豆の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。  
※本情報は、8月28日時点のデータを元に作成しています。

## 2 気象予報

### (1) 近畿地方の向こう1か月予報（8月31日～9月30日）

[令和元年8月29日 大阪管区气象台発表]

#### <予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

#### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

【気温】近畿地方



【降水量】近畿日本海側



【降水量】近畿太平洋側



【日照時間】近畿日本海側



【日照時間】近畿太平洋側



#### <気温経過の各階級の確率（%）>

1週目 近畿地方



2週目 近畿地方



3～4週目 近畿地方



凡例： ■ 低い（少ない） ■ 平年並 ■ 高い（多い）

(2) 近畿地方の向こう3か月予報（9月～11月）

[令和元年8月23日 大阪管区气象台発表]

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

10月 天気は数日の周期で変わり、近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

11月 近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率（%）>

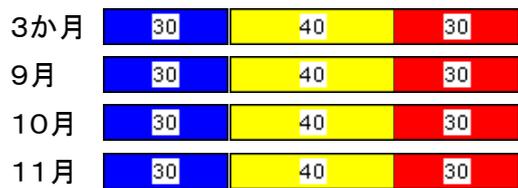
【気温】

[近畿地方]



【降水量】

[近畿地方]



凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

※気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病害虫発生予察情報」  
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)」  
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「Web 水稲生育予測システム」  
<http://www.aginfo.jp/RGP/>
- ・「携帯用水稲生育予測」  
<http://www.finds.jp/ricediag/kt/index.php>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」  
[http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11\\_000000107.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html)

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078)341-7711(代表)  
農産班:主作・機械担当 内線 4065  
農産班:野菜担当 内線 4054  
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター  
企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435  
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410  
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790)47-1222  
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230  
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : [http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11\\_000000097.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html)  
(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)